

令和 2 年度「体罰防止特別研修」について

学び支援課

1 目的

尼崎市立尼崎高等学校等で発生した体罰事案や全学校園で実施した体罰アンケートの結果を受け止め、市として体罰再発防止の取組を一層強化する必要性から、外部の専門機関に委託し、令和 2 年度からの 3 年間で集中期間として、体罰防止へ向けた教職員の特別研修を実施する。

2 研修内容

	回	日	研修	対象	校種
前期	1	6月25日(木)	マネジメント研修	管理職	全校園
	2	7月3日(金)	ストレスコントロール研修	一般教員	全校園
	3	7月10日(金)	指導法研修	部活動指導者	中・高
後期	4	8月31日(月)	マネジメント研修	管理職	全校園
	5	9月3日(木)	アンガーマネジメント研修	一般教員	全校園
	6	9月9日(水)	指導法研修	部活動指導者	中・高

3 実施後意見

【管理職】(6/25, 8/31)

- ・教員が違和感に思ったことは、ベテラン教員に対してであっても声をかけられるような風通しのよい関係づくりを醸成するのが大切であると改めて感じた。
- ・体罰は虐待と同じ傷を相手に負わせることになることを重く受け止めさせられた。
- ・尼崎市の体罰調査をもとに研修していただいたので、具体的でわかりやすかった。
- ・愛着障害を含めた発達特性を持つ児童理解や指導の多様性、指導力向上も合わせて進めることが体罰防止になり、「あたたかく・優しく・厳しい」指導の実現になる。
- ・本当に指導が入らない生徒に対しどのように指導すればよいか悩んでいる先生が多い。
- ・市教委が体罰根絶に本気になっていると身をもって感じた。

【一般教員】(7/3, 9/3)

- ・同じ内容でも人によってとらえ方が違うこと、多角的に考えること、プラスの言葉を出すこと等が必要であることを学んだ。
- ・仕事だけでなく、日常生活全般にストレスを軽減していけそうに思えた。
- ・「幸いにも不幸にもゲーム」は学級でも使えそうだ。楽しいだけでなく自然と色々な角度から考え、人の話をしっかり聞く練習ができた。自分の学校でも試したい。
- ・後から考えるとなぜそこまで怒っていたのかわからないことがあったが、何となくその理由が理解できた。他にも感情に関する研修や講座があれば受けてみたい。

【部活動指導者】(7/10, 9/9)

- ・説得から納得させる指導法の大切さと、具体的な指導法のレクチャーが勉強になった。
- ・求めたい行動は一緒でも、これだけ様々な手法があることがわかった。
- ・ここ数年「ティーチングからコーチングへ」をずっと言われているが、生徒とどれだけ関わり信頼を築いていけるかが問われているんだろうなあと改めて思う。
- ・現実はずっとシビアであり、理想と現実のギャップ差を感じた。
- ・「厳しくしないといけない」と考えている中、研修で「相手をほめて認めること」が大切と言われ違和感はあるが、まずは実践してみようと思う。
- ・普段は「ほめる」を意識していたが、部活動となると熱くなってしまうので、そういう時ほど「アイメッセージ」を大事にしなければならない。

以上